

議論重ねオオカミ追放



議論しながらゲームを進める学生たち＝津市の三重短大で

体験講座があったのは、三重短大生活科学科の長友薫輝教授(地域福祉論)のゼミ。昨年後期から、卒業論文に向けて地域医療についての発表などを続けている。「ゼミ生同士

ゲーム形式でコミュニケーション能力を高める体験講座が20日、津市一身田中野の三重短大であり、市NPOサポートセンターの指導で学生12人が議論を楽しみながら繰り広げるチーム戦で、意思疎通の難しさを学んだ。

(佐々木礼弥)

ゲームで対話力高めて



三重短大で「自己犠牲 難しかった」 体験講座

「チームのために自分が犠牲になるのが難しかった」と話し「普段一緒にいるだけでは気付かなかった、自分の発言力のなさに驚いた」と振り返った。

村人チームの学生たちは、数分間の議論を重ねてオオカミ役を突き止めようとしたが、意見がまとまらずにごとく失敗。二年生の高橋紗也加さん(20)は「チームのために自分が犠牲になるのが難しかった」と話し「普段一緒にいるだけでは気付かなかった、自分の発言力のなさに驚いた」と振り返った。

のコミュニケーションで結束をさらに深めてほしい」と考え、センターに依頼し、初めて開催した。



【津市記者 佐々木礼弥 撮影】